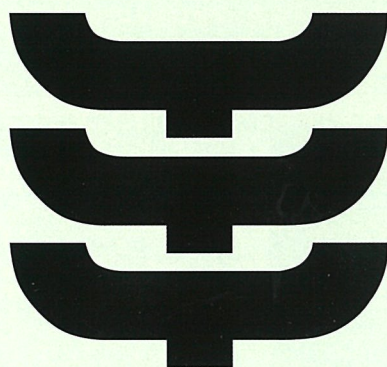


那珂川町の文化財 23

—地域に残る文化遺産—



▲文化財保護シンボルマーク

2015・3
那珂川町教育委員会

はじめに

私たちの住む那珂川町には、古くは石器時代からの遺跡が町内のいたるところに残っています。

こういった遺跡以外でも、古くから地域で受け継がれてきたいろんな行事や、人々が育んできた大木や貴重な植物、神社、仏閣、古い屋敷などは先人が残した本町の歴史や文化を理解するうえで欠くことのできない貴重な遺産です。

これら先人たちの残した文化遺産は本町の歴史を知ると同時に、町の個性としての付加価値を高め、これからのまちづくりに生かしていくことが求められています。

那珂川町教育委員会では、平成15年に、本町の文化財整備の将来像を策定し、個々の整備の指針とするとともに、町の将来像実現に向け、文化財を活かしたまちづくりを推進するためのマスタープランとして「那珂川町文化財保存整備基本計画」を制定しました。

この計画では、これまでの貴重な文化財を資料館、博物館に収蔵して展示するだけでなく、文化財が所在する地域とその文化財を守り育ててきた地域の人々に着目し、地域をそのまま博物館に見立て、地域に残る文化財を現地でそのまま保存し、地域住民が活用していくという「エコミュージアム」の手法を取り入れています。

これらを受け、教育委員会では基本計画の具体化を図り、文化財を活かした町づくりを行うため、「那珂川町文化財散策ルート整備基本計画」を策定し「文化財散策」をきっかけに、訪れる人に町のことを知ってもらい、地域住民には自分たちの地域の魅力を再発見してもらう目的で「なかがわ見聞録～文化財散策ルート～」というイラストマップを作成・配布しています。

本冊子では、これらの地域で守られている文化財について、年号が刻まれているなど、特徴的なものを中心に少し詳しく解説し、その魅力のさらなる理解の手助けになることを目的に発行しました。

今回紹介する文化財

- | | | |
|-----|------------|-----|
| 1. | 南畑発電所 | 市ノ瀬 |
| 2. | 南林寺磨崖仏群 | 市ノ瀬 |
| 3. | 戸板の大戸 | 南面里 |
| 4. | 教徳寺の喚鐘 | 西 畑 |
| 5. | 阿弥陀石仏 | 別 所 |
| 6. | 仲谷坊銘の鐘（磬子） | 山 田 |
| 7. | 高橋善蔵の墓 | 山 田 |
| 8. | 現人神社の絵馬 | 仲 |
| 9. | 上梶原の古墓 | 上梶原 |
| 10. | 権現塚古墳 | 片 縄 |

南畑発電所(みなみはたはつでんしょ)

福岡県で2番目に古い水力発電所で、明治44年10月27日に発電を開始しました。発電開始時には750KWで、当時の城南線の電車を動かす電力用として開設されました。発電所の東側の山の急斜面を這っている径90cmの水圧管は長さ320mで、落差が98mもあるため、水圧に耐えるよう管の厚さは12mmもあります。

南畑ダム建設等、周辺の様子は変わりましたが、発電所の建物、設備は当時のまま残っており、平成10年に改修されたものの、出力1600KWで、現在も電力を供給しています。本町の近代化に貢献した近代化遺産として価値の高いものです。



南林寺磨崖仏群(なんりんじまがいはつぐん)

市ノ瀬の中ノ島公園東側の尾根にある磨崖仏群で、花崗岩に線彫りされた仏像群が小さな谷を囲むように、17基が尾根筋上に並んでいます。岩の大きさや、顔だけ、上半身、全身と線彫りされる像も様々ですが、一定地域を囲むように置かれており、筑前国続風土記に記述のある、「頭風山南林寺」の寺域を囲むものかもしれません。右写真の像は、高さ1.95mの大きさで、この像の右側に八幡大明神、左側に春日大明神の文字が刻まれています。

これらの磨崖仏群がいつごろ置かれたのか不明ですが、線刻の方法などから、全てが同時期のものではないようです。また、通称「おだいにちさま」には雨乞いの祈祷をしたという記録があり、近世において、脊振山では水神をまつる重要な宗教活動があったことから、それらに関連するものかもしれません。



戸板の大戸(といたのおおと)

南面里戸板にある大岩で、筑前国続風土記には「其所に岩戸とて高三間半(約3.6m)、根の広さ面八間二尺(約15m)ある大岩あり。」また、「この岩戸あるによりて此下なる郷を岩戸と号すと里民はいへり。」と記述されています。つまり、この大岩が岩戸、岩戸郷あるいは那珂川町が誕生する前の岩戸村という、この一帯の地名の由来になったと伝えられます。

花崗岩露頭の大岩で、まさに神話にいう、天岩戸を彷彿とさせるものです。ちなみに、もう片方の戸びらは、遠く、大和国宮戸村(現在の奈良県御所市宮戸)に飛んでいったと筑前国続風土記に書いています。

この大岩のほぼ真ん中に、高さ1.5mの仏像が浮き彫りされています。蓮華の台座に載る大日如来坐像で、彫られた時期は不明ですが、像の特徴などから、古くても、江戸期を遡るものではないと思われます。



教徳寺の喚鐘(きょうとくじのかんしょう)

西畑の教徳寺は、元は戸板の大戸の近くにあったものを宝暦(1751~1763)はじめ頃、現在地に移されたとされます。この寺に年号の刻まれた小型の鐘があります。

この鐘は喚鐘といって、お寺で法要などを執り行う時に用いる小さい鐘で、半鐘、飯鐘ともいいます。また、茶席の準備ができたときに、入室を促すために鳴らす釣鐘の意味としても使われます。年号は「享保十二年丁未天青陽」(1727)とあり、また、「岩戸郷 戸板邑 教徳寺第八世」とあることから、教徳寺の8代目住職がまだ、戸板村に寺があった時に造らせたものであることが分かります。

第二次世界大戦の時、軍需物資として供出されたが、運よく戻ってきたという逸話が残っています。



阿弥陀石佛(あみだせきぶつ)

別所と西畑との境、西畑川の右岸沿いに別所から西畑に通じる旧道が残っていますが、その傍らに高さ1.2m、幅75cmの石塔が立っています。板碑といわれるもので、正平十二年(1357)の年号があり、上部に梵字(阿弥陀を表すキリーク)、下部は少し埋もれていますが、阿弥陀佛の文字が刻まれています。

「正平」は南北朝時代の南朝が使っていた年号で、当時、この一帯は、正平八年の「針摺合戦」を機に、南朝方が大きく勢力を伸ばしており、ここ別所も南朝の影響下にあったことが分かります。

年号のある記念物では、今のところ町内で一番古いものです。



仲谷坊銘の鐘(磬子)(なかにぼうめいのかね(けいす))

寺山田の寺坂家に伝わる鐘で、住職が読経の時、傍らにおいて鳴らす磬子(けいす)と呼ばれます。径27.5cm、高さ18cm、厚さ1.2cmの大きさと、胴部に文政七年(1824)の年号が刻まれています。

また、年号の他に「仲谷坊 良恭」という銘がありますが、仲(中)谷坊は宝満二五坊にあり、江戸時代の仲谷坊墓碑銘文に「良快大和尚」とあるので、「良」が通字であれば、この良恭という人物は仲谷坊の関係者とみることができ、この鐘と宝満山仲谷坊との関係を示すものとして貴重です。

一方で、字は違いますが、脊振山霊仙寺にも中谷坊があり、江戸時代に再興されていますので、寺山田とは距離も近いことから、霊仙寺との関わりも考えられるかもしれません。



高橋善蔵の墓(たかはしぜんそうのはか)

ハゼの栽培は、江戸時代からこの一帯に行われていましたが、山田の庄屋であった高橋善蔵がその効益性を知り、熊本や鹿児島に出向き、良質な蠟を採るハゼの栽培法を学んで、村人に勧めましたが、最初は相手にしなかった村人も、その有益性に気づき、善蔵に習ってハゼの栽培を始めたところ、村中大いに潤いました。近隣の村も真似して、年々栽培する者が多くなり、筑前の蠟といえば高値で取引されるため、益々潤いました。善蔵は子孫に伝えるため「窮民夜光珠」という本に栽培法をまとめています。

右上の写真は山田にある善蔵の墓とされるもので、善蔵は宝暦11年(1761)に亡くなりますが、「墓碑を立てるなかれ」という遺言どおり、ハゼの木が一本植えられ、銘のないおにぎり形の石が置かれています。また、下の写真は、郷土の先覚者を顕彰するため、民衆が多く集まる当時の郡役所(現大野城市筒井)に建てたものを役所の廃止等に伴い、雑餉隈の恵比須神社境内に移したものです。高さ270cmで、県道112号(旧国道3号)に面して立っています。



現人神社の絵馬(あらひとじんじやのえま)

本町のあちこちにある神社の社殿には多くの絵馬が奉納され、平成6年に町内の絵馬の調査を実施した時には400点弱の絵馬が確認されています。

これらの中で一番古い年号を持つ絵馬が現人神社に奉納されている「天保九年(1838)九月」のもので、画題は「勿来の関(なこそそのせき)」という故事にまつわり、弓を手にし、馬上から遠く山あいには散る山桜を望む源義家が描かれています。

勿来の関は古代、東北地方に置かれた関で、現在の福島県いわき市勿来町に比定地があります。平安時代、源義家が後三年の役を平定するため、陸奥に向かう途中で、この関跡を通り過ぎる時、桜花が散るのを見て、優れた歌を詠んだということから、歌枕として「勿来の関」と使われるようになりました。



上梶原の古墓(かみかじわらのこぼ)

那珂川南中の東側にある平蔵池の傍らに、板碑の左右に石を立て、天井に平石を架けた高さ1mほどの古墓があります。江戸時代に編纂された筑前国続風土記拾遺に記事があり、それによると、南無阿弥の文字と、元和十年甲子二月十五日(1624)という年号が彫られていると書かれています。梶原という地名は筑前国続風土記によると、「梶原景時の末裔が住んでいたので、この地名になったと伝えられる」と書いています。この古墓は、その末裔の墓ではないかと言われています。



権現塚古墳(ごんげんづかこふん)

本町の片縄一帯は遺跡の多いところですが、昭和40年代に急激に進んだ宅地造成のため、調査されることなく消滅していった遺跡や古墳群が数多くあります。観音堂の宅地造成で壊されたとされる権現塚古墳(装飾古墳)もその一つです。

この権現塚古墳は昭和43年頃の造成工事で石室が壊されたところを福岡県の調査技師が立会い、メモを取っています。それによりますと、周溝を含め、直径35mほどの円墳であったようです。また、周りに幅6mほどの堤があったようで、それを含めると、さらに大きい、この一帯では最大級の古墳であった可能性があります。すでに壊されていた石室の石材には円文や舟形文が赤色顔料で描かれており、この装飾のある3枚の岩は昭和45年に那珂川中学校の前庭に移築され、人字形に組み立てられています。



昭和43年頃の写真(中央に残る小山が権現塚古墳)

紹介した文化遺産の位置

- 1.南畑発電所
- 2.南林寺磨崖仏群
- 3.戸板の大戸
- 4.教徳寺の喚鐘
- 5.阿弥陀石仏
- 6.仲谷坊銘の鐘
- 7.高橋善蔵の墓
- 8.現人神社の絵馬
- 9.上梶原の古墳
- 10.権現塚古墳

那珂川町の文化財23

— 地域に残る文化遺産 —

発行：那珂川町教育委員会
福岡県筑紫郡那珂川町西隈1丁目1番地1号

印刷：株式会社ディスジャパン
福岡市中央区大名1丁目9番30号
福岡観光ビル3F